

1. ルートマップ資料から明らかになった事実

ルートマップは、地質踏査の基本的な資料であるとともに、場内全体の地質の分布と地質構造の広がり进行を考察する極めて重要なデータでもある。今回公開された資料の内容から、地質踏査技術者は、概ね、真摯に露頭観察して居た事が窺われる。

このデータから分かった点は、次の内容である。

- ①.CL 級～D 級岩盤の分布する場所で、断層破碎帯の特徴と幅そして走向・傾斜が記載されており、この脆弱な岩盤は断層破碎帯そのものである事が分かった。
- ②.特に大きな幅を有する D 級岩盤の場所で、トレンチ掘削がされている。このトレンチ掘削は、一般に活断層の調査にも採用されている方法で、地層のズレや破碎程度そして動いた地質時代の特定する為の極めて重要な調査である。
- ③.最下段北側斜面において、熱水変質が2～3箇所確認されている。熱水変質帯は深部から断層を通して、周辺の岩盤に特有な変質を与える作用である。
- ④.データの中には、節理面、セン断面、地質の貫入方向、断層破碎帯、熱水変質などの地質的分離面の走向・傾斜が測定されており、それらの方向から南側に傾斜する最も危険な「II 型流れ盤」が存在する事が明らかになった。
- ⑤.岩級区分に依存しない随所で湧水が確認された。

熱水変質帯が分布する場所には、処分場建設は種々の問題を惹起する事から避けられている。

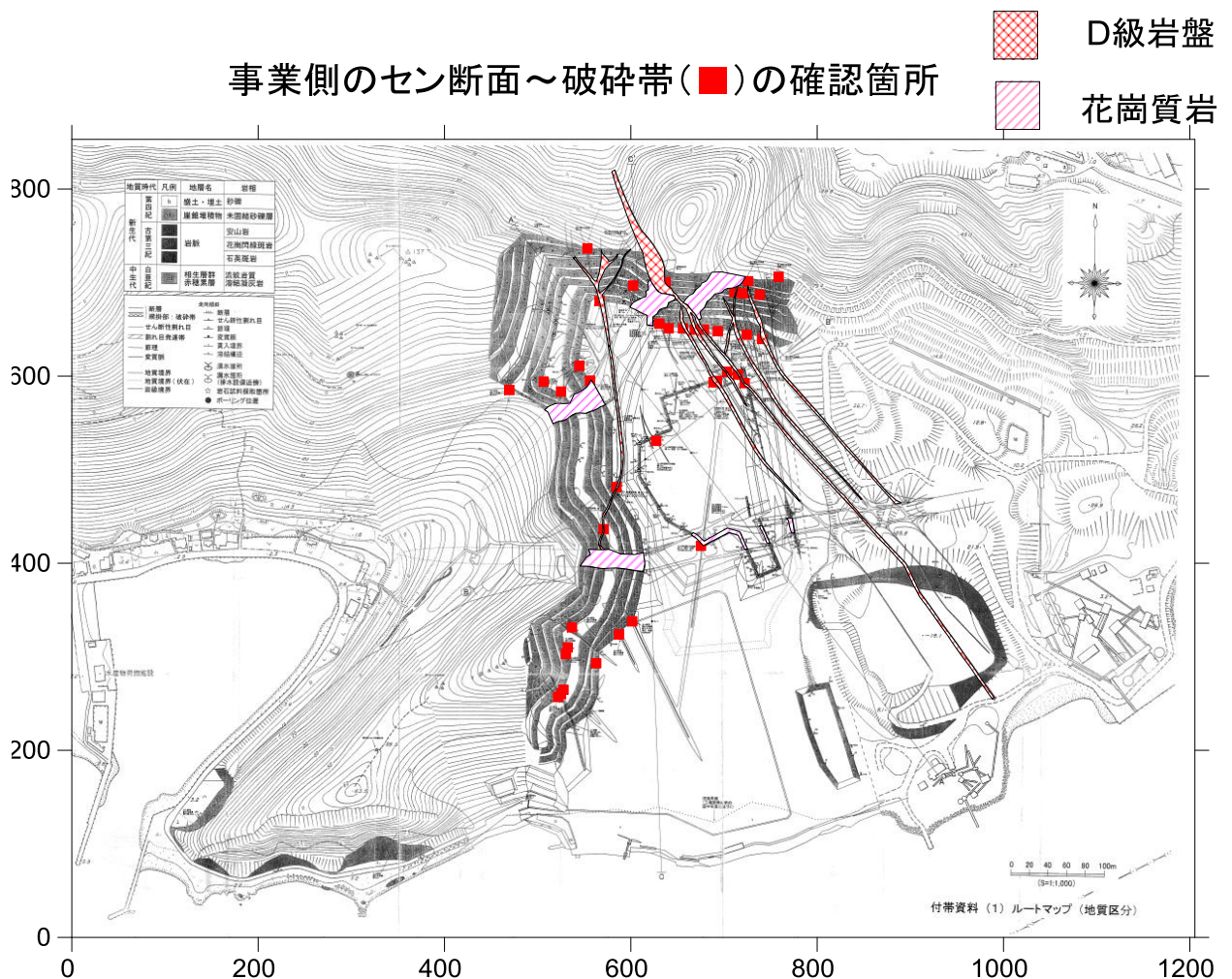


図 1.1 事業者側の確認したセン断面と断層破碎帯

業者側の確認した熱水変質の箇所 ★1m:熱水変質～変質箇所と層厚

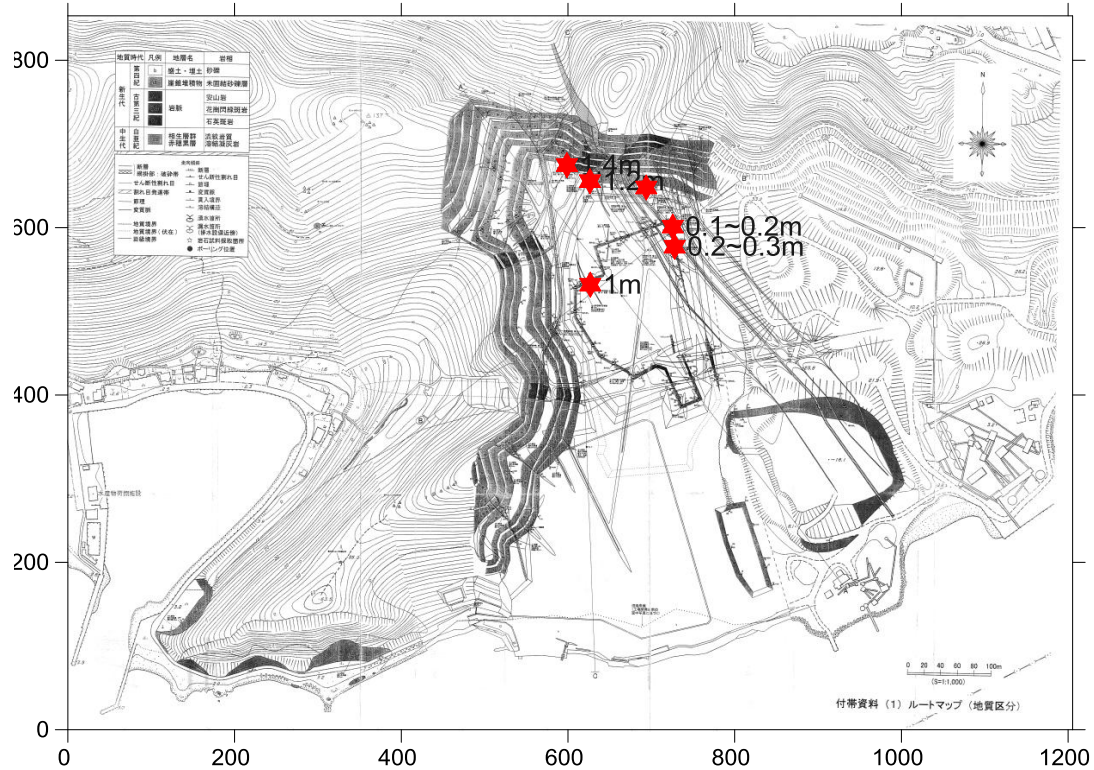


図 1.2 業者側の確認した熱水変質の箇所

業者側の湧水の確認箇所 ▲:湧水の箇所

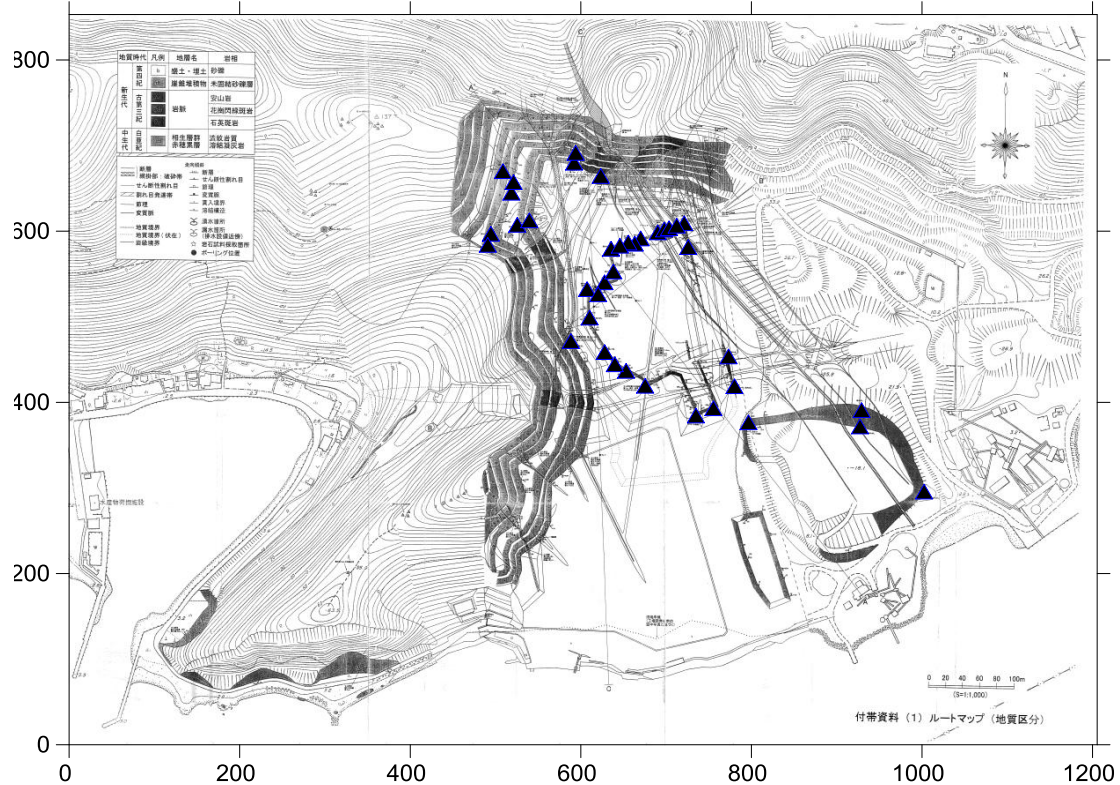


図 1.3 業者側の確認した湧水箇所

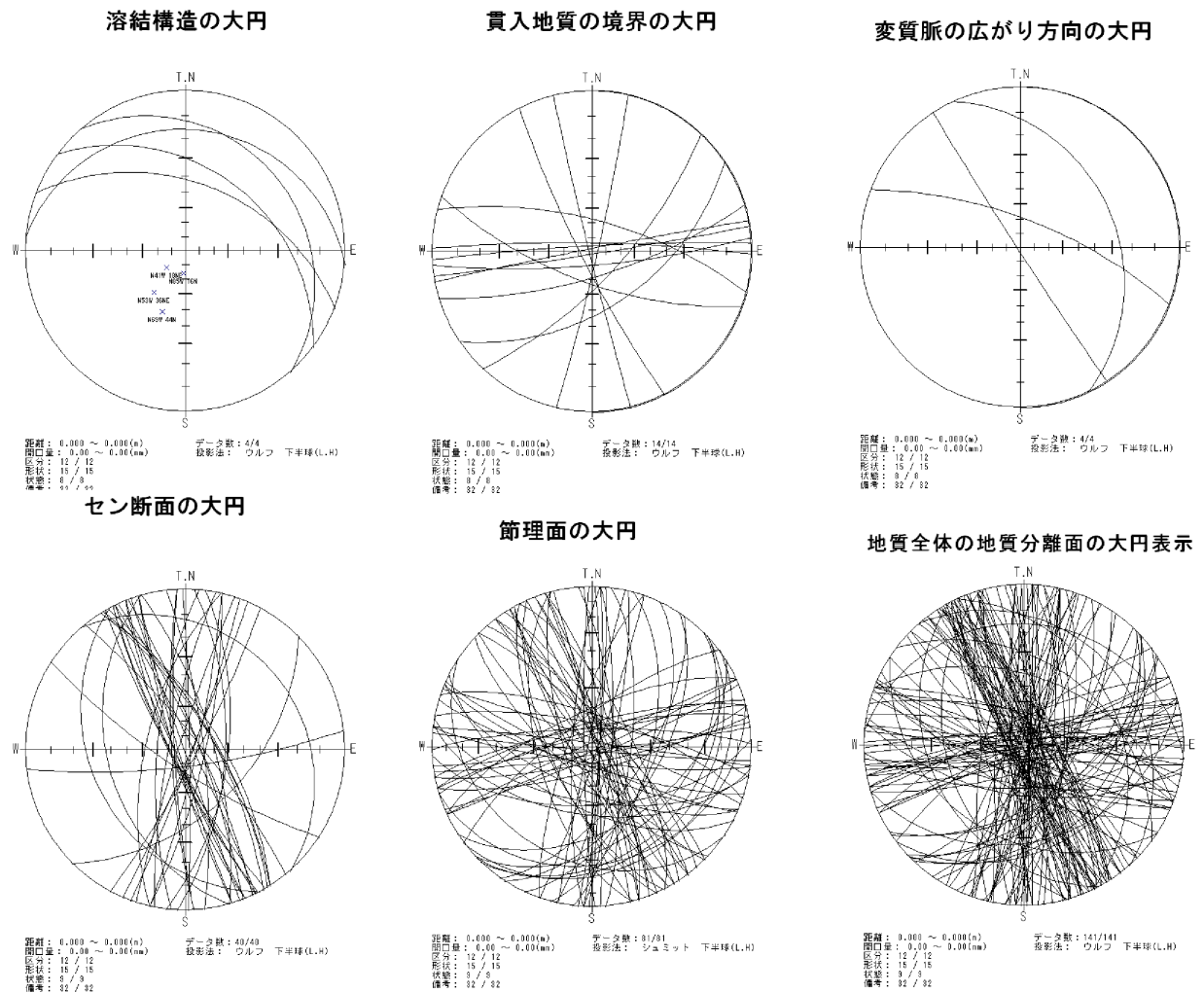


図 地質分離面大円

図 1.4 業者側の測定した地質分離面の大円表示 (国土研が作成)

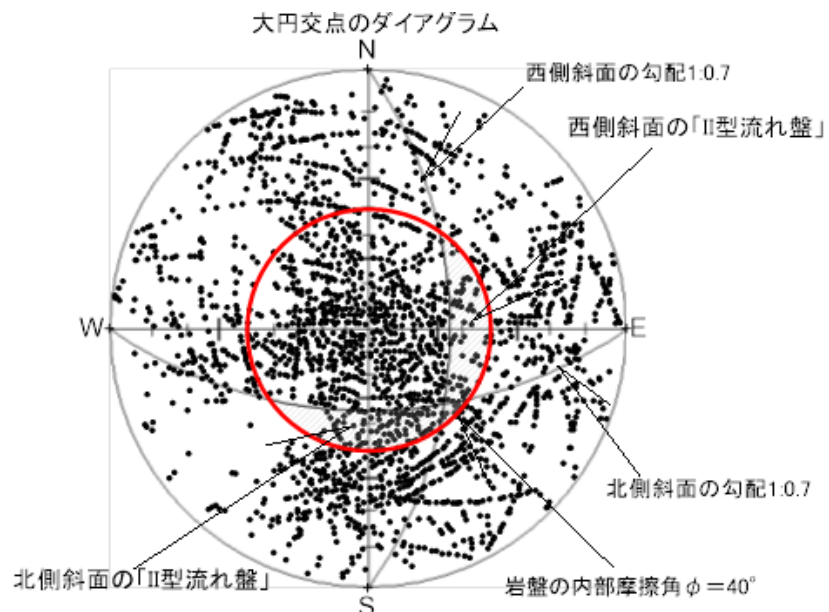


図 1.5 業者側の測定した地質分離面の大円交点表示による「II型流れ盤」 (国土研が作成)